

(様式第1-2号)

## 平成22年度 農業主導型6次産業化整備事業実施計画

### 1 6次産業化法人について

#### (1)6次産業化法人の概要

6次産業化法人の名称	組織の形態	代表者名	設立年月日
(有)小川養鶏場	農業経営を行う法人	小川 孜	昭和37年3月30日
主たる事務所の住所	鳥取県西伯郡大山町加茂2253	TEL	セキュリティに配慮し、 非公開といたします。
		FAX	

#### (2)6次産業化法人の構成員

構成員の氏名	年齢	住所・所在地 (都道府県市町村名)	出資金額	出資比率	備考 (農業生産法人である場合)
当該項目については個人情報を含むため、非公開といたします。					
			3,000,000 円	100 %	

(注) 備考欄には、農業生産法人である場合に農地法第2条第3項第2号に掲げる要件のいずれかを記入すること。この場合、常時従事者は「常」、農地等の使用収益権を移転・設定しているときはその旨を記入すること。

#### (3)6次産業化法人の経営状況

項目	
総収入(A)	当該項目については企業の経営内容の詳細を含むため、非公開といたします。
総支出(B)	
売上高(C)	
営業利益(D)	
経常利益(E)	
当期利益 (A-B)	
総資本(G)	
自己資本(H)	
総負債(I)	
収支率 (A/B×100)	
総資本経常利益率 (E/G×100)	
売上高経常利益率 (E/C×100)	
負債比率 (I/H×100)	

- (注) 1 総収入=売上高+営業外収益+特別利益  
2 総支出=売上原価+販売費及び一般管理費+営業外費用+特別損失  
3 営業利益=売上高-売上原価-販売費及び一般管理費  
4 経常利益=営業利益+営業外収益-営業外費用  
5 負債比率=総負債(他人資本)÷自己資本×100

(4)6次産業化法人の現状及び課題

<p>現状と課題</p>	<p><b>[概要]</b>                  自社製品である「さくらたまご」は主に県内で販売。県内多数の消費者の支持を得てきた。この「さくらたまご」のブランドイメージを更に高め、より多くの県内・県外の消費者へ認知してもらうために加工施設を建設して、マヨネーズ、親鶏の燻製等の加工品を製造・販売し、「さくらたまご」シリーズブランドの確立を図る。</p> <p><b>[沿革]</b>                  昭和37年3月、境港市で養鶏業を開業、(株)大京鶏卵(京都)へ鶏卵の出荷を開始。資本金300万円。当初から給与する餌を国産にこだわり、地元産の米ぬかやおからを飼料に配合。                  昭和46年、現在の大山町に名和分場を開設、増羽体制を確立。                  昭和56年、京都生活協同組合に鶏卵の出荷を開始。このころから「さくらたまご」として販売開始。                  昭和57年、本社を大山町に移転。                  昭和63年、鳥取県生活協同組合との取引を開始。                  平成21年度から地元の飼料米の給与を開始。「飼料米の卵」を販売開始。                  平成21年度 マヨネーズ開発により、鳥取県経営革新大賞受賞。                  現在飼養羽数は28,000羽。</p> <p><b>[商品]</b>                  純国産親鶏のさくらたまご、もみじたまご、マヨネーズ</p> <p><b>[所得]</b>                  生産される卵は、75%を鳥取県生活協同組合、25%を地元スーパーおよび町内に設定した自動販売機で販売しており、近年約1億1千万円の売り上げがある。                  収入は安定しているが、トウモロコシ等飼料価格の高騰により、安定した所得を確保することが難しくなっている。</p> <p><b>[雇用]</b>                  現在は従業員4名、パート6名を雇用。                  従業員うち1名は国の農の雇用制度を活用。                  他、役員2名。</p> <p><b>[事業に取り組むこととなった背景]</b>                  安定した価格で「さくらたまご」を供給するため、国産鶏、国産の餌(菓子クズ、蛸殻、米ぬか、魚粉等地元資源や飼料米を配合)にこだわり、アニマルウェルフェア(注:鶏の快適性に配慮して飼育すること。)に配慮し、より安心・安全な「さくらたまご」の生産・販売をしてきた。                  こだわりのたまごの魅力をさらに多くの消費者に認知してもらうために、関連商品を開発し、自社の経営安定を図ることとした。</p>
<p>6次産業化の展開方針</p>	<p><b>[6次産業化の展開方針]</b>                  安心・安全なブランド卵として県内消費者に支持されている「さくらたまご」を原料とした加工品を製造・販売し「さくらたまご」のブランド価値の向上を目指す。                  「さくらたまご」とその関連商品は、自社直売所と県内スーパー、生協等で販売していく予定。</p>

①農業生産

作物・部門別	計画時		目標年度	
	作付面積等	生産量	作付面積等	生産量
採卵鶏	28,000 羽	510 t	30,000 羽	548 t
	ha	t	ha	t
	ha	t	ha	t

②加工(2次産業分野)

作物・部門別	内容	製造量	
		計画時	目標年度
卵等	マヨネーズ	0 個	3,000 個
卵等	シュークリーム、ロールケーキ、プリン、カステラ、ドーナツ	0 個	25,500 個
卵等	ソフトクリーム	0 個	6,000 個
卵等	味付け卵、温泉卵、卵スープの素	0 個	10,500 個
親鶏	鶏肉の燻製	0 パック	4,500 パック

③流通・販売(3次産業分野)

作物・部門別	内容	販売額	
		計画時	目標年度
卵等	マヨネーズ	0 千円	1,500 千円
卵等	シュークリーム、ロールケーキ、プリン、カステラ、ドーナツ	0 千円	9,150 千円
卵等	ソフトクリーム	0 千円	1,200 千円
卵等	味付け卵、温泉卵、卵スープの素	0 千円	2,940 千円
親鶏	鶏肉の燻製	0 千円	1,350 千円
卵	生卵	118,389 千円	138,245 千円

2 連携法人について 該当なし

3 成果目標及び達成プログラム

(1)目標設定

項目	計画時 (平成21年度)	1年度目 (平成22年度)	2年度目 (平成23年度)	3年度目 (平成24年度)	4年度目 (平成25年度)
(所得の向上に関する成果目標) 売上高の増加	118,389 千円	119,304 千円	129,304 千円	139,304 千円	154,385 千円
	100 %	101 %	109 %	118 %	130 %
(雇用の創出に関する成果目標) 雇用者の増加	4 人	4 人	6 人	7 人	7 人
(地域の活性化に関する成果目標) 飼料米利用量の増加	0 t	60 t	70 t	75 t	80 t

(2)目標設定の考え方

項目	目標設定の考え方
(所得の向上に関する成果目標) 売上高の増加	加工施設と直売所を新設し、加工品の製造・販売を行う。 目標年の販売個数および金額は以下のとおり ・マヨネーズ(500g/瓶、@500円)を3,000瓶/年販売、 売上高:1,500千円/年を目標。 ・シュークリーム(@150円)、ロールケーキ(@850円)、プリン(@180円)、 カステラ(@1,050円)、ドーナツ(@150円)を合計25,500個/年販売、 売上高:9,150千円/年を目標。 ・ソフトクリーム(@200円)を6,000個/年販売、 売上高:1,200千円/年を目標。 ・味付け卵(2個入り、@120円)、温泉卵(6個入り、@300円)、卵スープの素(@500円)を10,500個販売 売上高:2,940千円/年を目標。 ・燻製(@300円)を4,500パック/年販売、 売上高:1,350千円/年を目標。 ・生卵(さくらたまご、もみじたまご、規格外の卵、ギフトセット等)を22,500セット/年販売、 売上高:138,245千円/年を目標。
(雇用の創出に関する成果目標) 雇用者の増加	・加工・販売部門に専任者が必要なため、従業員1名、パート職員2名を雇用予定
(地域の活性化に関する成果目標) 飼料米利用量の増加	・輸入飼料価格の高騰に対応し、地域の水田の有効活用を進めるため、西部地区の水田で生産される飼料米を鶏に給与する取組みを開始する。 ・さらに耕畜連携を進め、徐々に量を増やし目標年度には80tまで増加させる。

4 整備計画等

(1) 機械・施設等の整備計画

No.	事業主体名	整備内容		工期		機械・施設の 設置・保管住所
		施設名	事業量 (規模、台数等)	着工 年月日	竣工 年月日	
1	(有)小川養鶏場	農畜産物加工・販売施設  (オープン ソフトクリーム ミキサー等一式 含む)	1 161.38 棟 m <sup>2</sup>	平成22年12月15日	平成23年3月31日	鳥取県西伯郡 大山町名和696-1

No.	総事業費	負担区分			融資先		備考
		国庫補助金	自己資金	その他	金融機関名	償還年数	
1	36,875 千円	15,159 千円	21,716 千円			年	国庫補助1/2以内 含税額
計	36,875 千円	15,159 千円	21,716 千円				

(注) 1 工期欄には、申請時においては着工及び竣工予定年月日を、実績報告時には実際の着工及び竣工年月日を記入すること。

2 担保欄には、補助対象物件を担保に供し、自己資金の全部又は一部を金融機関から融資を受けようとする場合に記入すること。

3 備考欄には、国庫補助率を記入するとともに、仕入れに係る消費税等相当額について、これを減額した場合には減額した金額を、仕入れに係る消費税等相当額がない場合には「該当なし」と、仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない場合には「含税額」とそれぞれ記入すること。

4 補助金実績報告時において、承認のあった事業実施計画のうち整備計画の内容に変更が生じた場合には、本様式の4の(1)整備計画を修正して添付すること。

(2) 事業費低減の方策

施設等名	事業費低減の具体的方策
農畜産物加工・販売施設	施設・機械の導入に当たっては、一般競争入札により事業費の低減を図る。
農畜産物加工機械	

(3) 関連事業

他の補助事業で整備した機械・施設等

事業名	事業内容	実施年度	利用計画	利用実績	利用率(%)

(4) 機械・施設等の利用計画

事業実施主体 (管理主体)	構造・規格	規模・台数	管理運営 従事者	利用(稼働)期間	施設運営に係る 収入/年間(千円)	施設運営に係る 支出/年間(千円)
(有)小川養鶏場	木造平屋建 (農畜産物 加工・販売 施設)	床面積 161.38m <sup>2</sup> 1棟	職員 1人 パート 2人	300日	27,540千円	22,667千円

対象作目	稼働計画(処理量)/年間	適正かつ十分な利用が見込まれる理由
卵等 (農畜産物処理・加工施設)	マヨネーズ:3,000個/年 シュークリーム:7,500個/年 ロールケーキ:1,500個/年 プリン:7,500個/年 カステラ:4,500個/年 ドーナツ:4,500個/年 ソフトクリーム6,000個/年 味付卵:4,500個/年 温泉卵:3,000個/年 卵スープ:3,000個/年 燻製:4,500パック/年	<p>&lt;製菓・燻製等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の道の駅、直売施設では、加工品等の販売を行っており、合計で約480人/日の来客数となっており、このうち1/10の50人程度の来客数を見込んでいる。</li> </ul>
卵等 (農畜産物販売施設)	売上額:27,540千円/年	<p>&lt;鶏卵&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建設予定地付近の生卵の自動販売機では、約80人/日の購入がある。</li> <li>・同量の卵の販売と、それに伴う加工商品の販売が見込まれる。</li> </ul>

(注)1 機械・施設等ごとに作成すること。

2 処理量は機械・施設等に応じて、(t・千円・ha)等を記入すること。

5 費用対効果分析

項目	効果等	備考
総事業費:A(千円)	36,875	
1 効果の内訳(年効果額):B(千円)	4,224	
(1)直接効果	-94	
①生産向上効果	10,678	
②経費節減効果	-10,772	
③経営基盤保全効果	0	
④農外所得増加効果	0	
(2)間接効果	4,318	
①地域所得増加効果	4,318	
②洪水防止効果	0	
③水源かん養効果	0	
④土壌浸食防止効果	0	
⑤土砂崩壊防止効果	0	
⑥有機性廃棄物処理効果	0	
2 直接効果比率:直接効果額/年効果額	-0.02	
3 廃用損失額:C(千円)	0	
4 還元率:D	0.10	
5 総合耐用年数	13.1	
6 妥当投資額:E=B/D-C	42,306	
7 投資効率:F=E/A	1.15	